

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和8年度 東中だより 第10号	発行日	令和8年9月17日
教育目標	多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【全国学力・学習状況調査】

令和8年4月22日に3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。本年度は、国語、数学に加え、英語の調査が3年ぶりに行われました。本校の結果は、

	本 校	全 国
国 語	65	63.9
数 学	60	57
英 語	510	499

国語・数学・英語のすべてにおいて全国平均（以下：全国）を上回るものでした。英語は、「聞く」「読む」「書く」の3技能について、問題の難易度も考慮した「IRT スコア」で示されています。いずれの教科においても良好な結果と

なりました。これは、子どもたち一人ひとりが日々の授業や家庭学習に真剣に取り組み、学びを積み重ねてきた成果です。まずは、努力を続けてきた子どもたちを大いにたたえたいと思います。もちろん、この調査によって測定できる学力は一部であり、学校教育の成果のすべてを表すものではありません。しかし、全国のすべての公立中学校で実施される調査だからこそ、本校の子どもたちの学力や学習状況の特徴を把握し、今後の授業改善や学習支援につなげるための貴重な資料となります。

<教科調査から見えた課題>

結果を分析すると、本校の子どもたちの確かな成長とともに、今後さらに伸ばしていきたい力も見えてきました。

国語では、文章を引用し、その内容を根拠として自分の考えを書くことに課題が見られました。特に、言葉や表現の意味・効果を本文に即して説明する設問で正答率が低い傾向がありました。今後は、文章中の表現に着目し、その意味や効果について根拠を明確にしながら説明する学習を充実させていきます。

数学では、資料やグラフの特徴を捉え、判断した理由を数学的な根拠に基づいて説明することに課題が見られました。今後は、データを正確に読み取る力だけでなく、自分の考えを論理的に説明する力の育成に取り組んでいきます。

英語では、文章の要点を捉えた上で、自分の考えとその理由を英語で表現することに課題が見られました。今後は、英文の内容を正確に読み取る力とともに、自分の考えを相手に分かりやすく伝える表現力を高めていきます。

<最後まで諦めない姿勢が表れた結果>

今回の調査で特に素晴らしかったのは、国語 15 問、数学 16 問、英語 16 問の合計 47 問すべてにおいて、全国よりも少ない無回答率であったことです。難しい問題に出会うと、解答をあきらめてしまうことが多いものです。しかし、本校の子どもたち

は最後まで粘り強く考え、答えを導こうとする姿勢を示していました。中には、全国では4人に1人以上が無回答であった難しい問題もありましたが、本校では無回答率が9%にとどまり、多くの子どもたちが最後まで諦めずに考え続けていました。

この「最後まで諦めずに取り組む姿勢」は、テストの点数だけでは表れない本校の子どもたちの大きな強みです。課題に誠実に向き合い、自分の力を最後まで発揮しようとする姿勢は、これからの学習はもちろん、将来の社会生活においても大切な力となります。

全教科で全国を上回ったこと、そして全47問で全国より低い無回答率であったことを私たち教職員は大変うれしく、誇りに思います。ただ、細かな課題も散見されていました。今回の結果から見えた成果と課題を教職員全員で共有し、子どもたち一人ひとりのよさや可能性をさらに伸ばす授業づくりを進めてまいります。そして、子どもたちが「わかった」「できた」という喜びを積み重ね、自信をもって学び続けられるよう教育活動の一層の充実に努めてまいります。次号で、学習状況調査から見えてきた成果と課題について記載いたします。

【A I時代だからこそ大切にしたい「人の力」】

A Iは、分からないことを瞬時に教えてくれたり、悩みに答えてくれたりする便利で身近な存在になりました。しかし、A Iがどれほど進歩しても人の心の痛みに寄り添い、ともに喜び、ともに悩むことまで人間と同じようにできるわけではありません。



先日、あるスポーツ関係者の家庭内の問題に悩んだ娘が、A Iに相談し、その助言をきっかけに関係機関へ連絡したという報道がありました。A Iは24時間いつでも利用でき、対面では話しにくいことも相談しやすい存在です。その意味では、必要な支援につながる一つのきっかけになり得ます。

一方で、この報道を通して、私たちは「子どもたちの身近に困ったときに安心して相談できる人がいるだろうか」と改めて考える必要があると感じました。悩みをA Iに相談すること自体が悪いわけではありません。しかし、A Iだけに頼るのではなく、「この人なら話せる」「この人なら受け止めてくれる」と思える家族や友達、先生、地域の方とのつながりを育てることも大切です。表情や声の調子、言葉にならない思いを感じ取り、相手の心に寄り添うことは、人間だからこそできることです。

また、A Iが示した答えをそのまま受け入れるのではなく、自分の知識や経験に照らして確かめる姿勢も必要です。「その情報は正しいのか」「ほかの考え方はないか」「その判断で本当によいのか」と立ち止まって問い直すことが、これからの時代を生きる大切な力になります。

本校では、「人と関わる力」「心を感じる温かさ」「創り出し行動する力」の三つの力を大切に育てていきます。学校・家庭・地域における豊かな体験と温かな人との関わりを通して、自ら考え、判断し、主体的に行動できる子どもたちを育成し、A I時代をたくましく生き抜く力を培っていきたいと考えています。